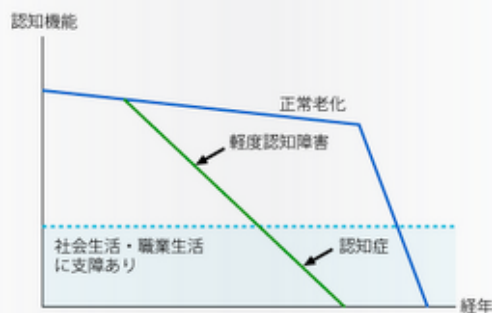


患者さんやその家族のみなさんによく質問されることに答える「神経内科Q & A」の第4弾です。今回は認知症関連でよく使われる略語MCIについて解説してみます。「MCIという言葉聞きますがどういう意味ですか？」としばしば尋ねられます。

軽度認知障害 (mild cognitive impairment) を略して MCI といいます。

MCI とは下の図のように本来アルツハイマー病などの認知症とはいえないけれど、知的に正常ともいえないレベルまで低下がみられる状態を指します。



軽度認知障害と認知症の概念的変化
【認知予防・支援マニュアル 東京都老人総合研究所より】

MCI の考え方の変遷は実は多彩なのですが、最近のもっとも一般的な記憶障害に重点を置いた診断基準は次のようなものです。

- 1) 主観的なもの忘れの訴えがある。
- 2) 年齢に比べ記憶力の低下がある。
- 3) 日常生活は正常である。
- 4) 全般的な認知機能は正常である。

5) 認知症ではない。

この項目をすべて満たせば MCI といえるのですが、この場合は健忘が主体となりますので健忘型 (amnesic) MCI と考えられます。少々ややこしくなりますが、認知機能の低下は必ずしも健忘だけとは限り

りせんので、健忘以外あるいは健忘に加えて他の機能が障害されている MCI も存在します。話しを単純に

するためにここでは MCI を健忘型に絞っておくことにします。

では、どうして MCI が注目されているのでしょうか。地域調査で MCI の頻度を計算したものが世界的にはいくつかあります。大変ばらつきが大きいのですが、65 歳以上の人口の 3% から 5% という報告が多いようです。しかも、その MCI の人たちは年間 10~15% の割合で認知症に移行していることが分かりました。MCI が注目される理由は、MCI の多くが本当の認知症に進展していくことが分かったからです。MCI の中にはもちろん加齢による知的能力の低下も含まれていますが、MCI の主体は認知症予備軍であるといえます。

MCI はどうして重視されるのでしょうか。塩酸ドネペジル(アリセプト)が上市される以前は、いくらアルツハイマー病を早く見つけても治療法がないのだから仕方ないと早期発見には消極

神経内科 Q & A その 4 : MCI

的な意見が多かったことと思います。現在は、ワクチン療法を始めとするより根本的な治療に手の届くところまでできていますから、可能な限り早く発見した方が高い有効性を期待できるはずで、また、既存の治療法、生活習慣の改善、危険因子の回避も早期から行うことでアルツハイマー病の発症を抑制あるいは遅延できる可能性があるという研究結果も報告されています。MCIの重要性はMCIに気づくことによっては認知症に至る前の早期に諸々の対策が立てられるということにあります。

最後に現状のMCIの問題点について私見を述べます。先に掲げたMCIの診断基準はしっかりしているようですが、実は評価者の観察の入念さや経験によって流動的な面があります。一般に熟練した認知症の専門家が評価するとMCIの幅は狭くなります。つまり、正常者とアルツハイマー病の移行部分が少なくなるわけです。逆に、不慣れな判断ではアルツハイマー病の部分がMCIに含まれてMCIの幅が広がってしまいます。ですから、画像診断や臨床検査によって客観的に評価する方法の開発が望まれます。さらに、MCIの脳は顕微鏡で見るとどうなっているかといえ、すでにアルツハイマー病と区別できない状態にあるという観察があります。MCIの時期にはすでに手遅れで、もっと早くに対処しなければいけない可能性があります。いずれにしてもより早く病気の芽を見つけようという不断の努力は大切でしょう。

附録ですが、MCIで気づかれやすい徴候を集めた報告がありますので、下記の表を参考にしてみてください。

表(田北昌史. 軽度認知障害: 外来診療のこつ)

1. 記憶障害

直近のエピソードを忘れている

同じ質問・話しを繰り返す
置いた場所・しまった場所を忘れる
蛇口・スイッチ・ガス栓の閉め忘れ
今何をしようとしていたかわからない

2. 時間の見当識

日付や曜日がわからない
どれくらい前のことかわからない

3. 性格変化

猜疑心(疑り深い)
依存傾向
怒りっぽい

4. 話しの理解

とんちんかんな応答
辻褄を合わせようとして作話になる
少し複雑な話しは理解できない

5. 意欲の低下

長年の趣味をやめた
物事に対する興味・関心の喪失
外出しない

終わりに

MCIの状態にある人たちが本当にアルツハイマー病に進展するのかどうかを予測する方法の一つとしてアミロイドイメージングが盛んに行われるようになっていきます。このような技術が治療法と両輪となって進歩すればアルツハイマー病の制圧は夢でないように思われますが、まだまだめざす頂上はみえてきません。

今回は久しぶりに当院神経内科の期待の星である池田祥恵医師に執筆をお願いしてありますのでご期待ください。

まだまだ厳しい残暑が続きます。今夏は当院でも熱中症の患者さんがたくさんみえました。散歩や屋外の作業は朝夕の涼しい時間に行いましょう。水分補給に心がけて残暑を元気に乗り切りましょう。食欲の秋はすぐそこです(M.T)。